

まちのたから (41) 文化財室通信

シリーズ 「日本遺産」 第15話

今回は第4章のうち、いろいろな大山信仰について紹介します。

池さん神事とはまなんご神事

伯耆町大内では、水にまつわる「池さん神事」が行われています。これは、平成28年の日本遺産認定時には「はまなんご神事」としてお知らせしていたものです。普及啓発する中で、「硯ヶ池」で行われていた「池さん神事」が、次第に「はまなんご（浜難言）」がある場所で行われるようになったこと、同じ例祭日に「はまなんご神事」と「池さん神事」が行われていることから、二つの神事の混同が生じていたことが分かりました。日本遺産のストーリーについても修正申請をし、承認されました。

山陽方面の大山信仰

大山の南側、いわゆる山陽方面には、死者と牛馬を供養する大山の信仰が伝わっています。牛馬供養については、前回もご紹介した牛供養田植のような形で現在まで続いています。

山陽方面では、亡くなった人の霊は大山に集まり、山頂からあの世におもむくという「他界」信仰が広く

知られています。大切な縁者を失った人々は、はるばる大山寺を訪ね、大山の地藏菩薩による救済を願い、金門奥にある賽の河原で故人を供養しました。

特に『地藏和讃』では、早世した幼子が、河原で小石を積んでは地獄の鬼に壊されることが繰り返され、この世の親に会いたいと願っている。と、地藏菩薩が現れて「今日より後は我を冥土の親と思え」と抱きかかえ、冥土へ連れて行くこととされており、子を失った父母の深い悲しみの心と我が子の救済を願う思いが滲み出ています。

今では見かけることも少なくなりましたが、大山の賽の河原の石積みには、故人への思いと救済の願いが詰まっているようです。

(社会教育課 文化財室)



賽の河原

第9回茅葺きフォーラム

鳥取県大山大会が行われました

第9回茅葺きフォーラム鳥取県大山大会が、6月16・17日に開催され、県内外から約180人の参加がありました。

16日は、大山公民館を会場に「伯耆国の茅葺き―弥生の里にルーツを探り未来を考える―」をテーマに講演・報告・パネルディスカッションが展開されました。パネルディスカッションでは、参加された茅葺き職人の方や茅葺きに関わるいろいろな立場の方が意見や質問をされ、今の茅葺きを取り巻く環境と未来について、多くの議論が交わされました。

存会の皆さんが伝建地区内を案内し、門脇家住宅等保存協力会の皆さんが本門脇家・南門脇家・東門脇家の説明や昼食会場の準備などをされました。文化財の住宅でいただく昼食に「なんて贅沢!」と、参加者の方が喜んでおられました。むきばんだ史跡公園では、整備された復元住居の前に、屋根の葺き方などを興味津々に見学されました。

(社会教育課 文化財室)

17日は、現地見学会が行われ、大山寺周辺の堂宇や社殿、僧坊建物、所子伝建地区、鳥取県立むきばんだ史跡公園などを見学しました。

所子では、所子町並み保



パネルディスカッション



茅葺き堪能!